



よこはま プロバス通信

No6 2012年6月発行

<http://yokohama|probussu.web.fc2.com/TR3.html>

情報委員会・編集委員

情報委員会所在地：横浜市中区港町3-13番地 弁慶内 電話：045-651-3643

高齢化が進む社会で大事な役割を担う

会長 森山 功 幹事 松下尚雄

この1年間皆様のご協力ご支援のお蔭をもちまして無事大役を務めることが出来ました。誠にありがとうございました。創立10周年という節目を踏まえたこの1年、ただひたすらどうしたら皆様に満足していく会の運営が出来るかと試行錯誤しながらの毎月の例会等の開催でした。



諸先輩が10年間営々と築いてこられたわが倶楽部の伝統、この伝統をしっかり次世代に継承していかなければならぬと考えております。

わが倶楽部の3つの柱①例会委員会②会員委員会③情報委員会を充実することに努めてまいりました。①例会については、改めて先輩が「相生本店」と「進交会館」という定例の会場を確保して頂いた事が会のスムーズな運営のカギだと実感いたしました。例会等の内容についてはまだまだ工夫が不十分で満点には程遠い状況だったと反省しています。②会員委員会では誕生日月の贈答品に心を砕く真心のアイデア商品を選んでいただきました。移動例会・懇親会の企画運営は好評を博しました。さらに会員相互の親睦を図る「にこにこサロン」、「ゴルフ同好会」、「旅行同好会」が開催されました。また健康増進と横浜の事を知らうと「よこはま歩こう会」を計画しております。③の情報委員会ですが「よこはまプロバス通信」の定期刊行が出来ました。



これは会員のための会員相互の理解を深める情報提供の場とし例会だけでは分からない、理事会の記録や県下各クラブの動向、親しく交流してきた東京八王子、東京多摩、全日本の様子等を紹介し横濱プロバス倶楽部の発展に寄与したいと考えて取り組んでまいりました。また対外的なピーアールと新会員募集にも役立つような紙面にしていきたいと願っています。また今後のことを見据えてホームページの充実、メールによる会員相互の連携等々に尽力してきました。これは偏に関口尚親氏の努力の賜物でした。

15周年(2016年)を目指し着実な発展をしていきたい。特に財政面で、会費3万円を1万2千円と大幅なダウンで果たしてこれまでの様な会の諸行事が運営できるか心配いたしました。これも何とかクリアできたのではないかと自負しております。更に適正な会員数の確保でも増加の傾向にあります。1年という役務ではありましたが多くの事を学ばさせて頂きました。「老いて学ばば朽ちず」という言葉が頭をよぎります。2014年には横浜で全日本PC協議会総会の開催が予定されています。これらの諸事業の成功のために今後とも尽力して参ります。

1年間の感謝の思いを込めて～。

新会員紹介

高橋 幸司 No83
(たかはし こうじ)



富永 和男 No84
(とみなが かずお)



宮川 清彦 No85
(みやかわ きよひこ)



※今期は5名の方が入会され1名の方が退会(病氣療養の為)され5月末会員数は40名となりました

4月移動例会から
湯河原ホテルR&S碧翠で
12日13日1泊親睦旅行



松下幸之助に師事して今想う事

江口克彦氏

(元PHP社長・現参議院議員)

私自身にもこんな思い出がある。松下は病院をマンション代わりに使っていたことがあった。そこへ私はPHPの仕事を終えてから、報告や相談のために毎日のように訪れていた。9時に帰ろうとすると、「まだ用事があるのか」と聞かれ、仕事があるわけではないので、更に雑談などをしてしていると、10時半、11時になる。朝8時から一日中PHPの仕事をして、それからまた10時半過ぎまでだから、さすがに疲れてしまう。



そこで、部屋を辞そうとすると、松下はベッドからわざわざ起き上がる。私が帰るくらいのことだから「わざわざ起き上がっていただかなくても結構です」と言うのだが、「いや、かまへんで」と。すでに80歳を越えている松下がベッドから降りて部屋の戸口まで私を見送ってくれるのである。

私は本当に恐縮し、それ以上に感動してしまう。ところが、まだあるのだ。

ベッドから降りた松下は、部屋の出口までの3メートルほどの距離を歩きながら、いつも「きみ、身体に十分、気いつけや」と声をかけてくれる。「わしはな、160歳まで生きるつもりや。160歳まで生きるつもりやから、その間、随分といろんな仕事をやろうと思ってあるんや。けどな、わしはそれを君に手伝って欲しいんや。そうしてもらわんと、できへんのや。君に手伝ってもらわんと、困るんや。きみに手伝ってもらわんとあかんのに、わしより早く逝ったらあかんで」この一言で“疲れ”は、いっぺんに吹き飛んでしまう。すっかり気分爽快になって、明日も頑張ろうという決意が湧いてきたものだった。

帰った後も夜中に電話があったり最高1日8回もあつ

たこともある。1年365日休みらしい休みは1日とてなかったが今では懐かしく良い思い出ばかりである。いつも、電話では“わしゃ”と喋ってかかってくる。電話に出た子供から「わしやさん」から電話ということになって大笑いしたこともあった。「君の声を聞くと元気が出る」「声、聞きたかったんや」と言いながらも、その実、叱られたり、怒られたりするのだが「そうか」と松下の想いが胸にストンと落ち、感動をおぼえるのだった。

◇

松下は100の熱意、60の能力と言っていた。「熱心さ」を買ってくれる人だった。事にあたっては「知」より「熱意」「熱意があれば知恵がつく」との信念があった。以前ある会社の社長が「知恵あるものは知恵を出せ、知恵無き者は汗を出せ、それもできないものは去れ」と社員たちに言っていたことがある。なかなか面白い言葉だと思った私がお話をすると、松下は「あかんや、つぶれるな」と言った。「ほんとうは、まず汗を出せ、汗の中から知恵を出せ、それができない者は去れ、と、こう言わんとはいかんのや。知恵があっても、まず汗を出

青春とは心の若さである
信念と希望にあふれ勇氣にみちり
日に新たな活動をつづけるかぎり
青春は永遠にその人のものである
松下幸之助



松下政経塾

●理事会便り

<2月理事会> (2月17日、11名)

報告事項；(1)各委員会から ①情報委員会より__横須賀PCの地震講座参加5名②会員委員会より__各種同好会の報告まとめて例会発表する③ゴルフ同好会は4/13移動例会のあと3組で募集 (2) ①鎌倉プロバスクラブ10周年記念式典

(2/10)について 11名参加②横浜山手RC20周年記念式典 (2/8) 5名参加③全日本PCの現況協議事項；①3月例会 (3/9) について ②4月移動例会宿泊予約等について22名参加予定

<3月理事会> (3月16日、10名)

報告事項；(1)各委員会から ①情報委員会より__HPに鎌倉PC掲載②会員委員会より__旅行同好会の報告③例会委員会より__全日本PCの役員候補の加藤氏、森山氏を常任理事とする (2) 第1回旅行クラブ・上海旅行報告。今後は東北の被災地視察なども企画したい (3) 3月例会の反省__ビジタ・高橋さんの入会希望。

協議事項；4月例会 (4/12~13) について。参加者23名。5月例会等について__特別放談・江口克彦氏 (松下幸之助氏に師事；PHP社

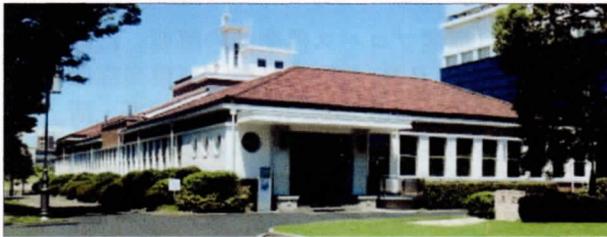
長も歴任)に依頼。降幡氏が病氣により退会。

<4月理事会> (4月20日、12名)

報告事項；(1)4月移動例会の反省②会員委員会よりゴルフの同好会を翌日実施③例会委員会より__21名の参加。協議事項；①5月例会 (5/11) の内容②6月例会・総会等について

<5月理事会> (5月18日、14名) 協議事項；6月例会・総会等について 6/15の理事会1時からに繰り上げて「第6回神奈川県プロバス連絡協議会」に参加

松下幸之助歴史史館



しなさい。ほんとうの知恵はその汗の中から生まれてくるものだ、ということやな」その会社は数年すると本当に潰れてしまった。



人の話をよく聞く人だった。だからどんな些細なことでも報告する。丁度、銭形平次のガラッハの八五郎がいい例で「親分、たいへんだ、たいへんだ」と言って駆け込んでくるガラッハに、平次が「なんでえ、なんでえ」と聞く。このとき、ガラッハにどんな情報でも持ってこさせることが大事なのである。いつも、いつも、親分が「何だ、何だ」と熱心に聞いてやるから、ガラッハは喜んで飛んでくる。つまらない情報でも、なにはともあれ持っていき、まずとにかく親分に知らせよう、連絡しよう、報告しようと思うからだ。持っていけば、きっと親分は熱心に聞いてくれる、ガラッハはそう考える。そういった「ガラッハ」を何人持っているかが大事である。



日本経済低迷は安易なリストラのし過ぎにある。松下もリストラを行ったが、その分、他の事業を拡大し社員を吸収していた。たとえば今の富士フィルムのように、フィルムの売上げは5%で95%は化粧品、医療品の生産販売に変身している。このように時代に合わせ、変化し拡大していかなければならない。それがないと、結局リストラされた優秀な技術者はサムソン、LGなど韓国、中国等になってしまう。人間を大事にすることだ。人間を大事にしない経営では「角を磨めて牛を殺す」ことになりかねない。国家、国民を考える経営をしないと日本はこれから益々衰退をするだろう。



松下幸之助のもとで23年間、直接指導を受け「松下哲学」について側近としての私的な経験も話され、松下幸之助の人として温かな人柄、人の話をよく聞いた人、人間を大切に、人を褒める事を忘れない、まずは人として、経営者としての鏡と感じました。「60%の能力で100%の熱意」を社員に持たせ、能力を大いに引き出して、企業としての成功に導き、「世界の松下電器」としての偉業に結びついた事が理解できました。「企業は人なり」と言われますが、これは、私たちにも通用する事で、心を豊かに持つことで人間性が高められ、人との絆を大切にしたい人生がおくれたら幸いです。まさに人間として大切な事は何か、興味深く聞く機会を持つ事が出来て光栄でした。(本橋ふみ子)

◆ ◆ ◆ <例会出席者の声> ◆ ◆ ◆

松下幸之助翁についてのお話で我々と何が違うのかと考えた時、翁には人の気持ちを「おもんばかり力」が我々以上にある事だと思いました。意味は「周囲の状況などをよく考え思いめぐらす」なのです。数ある語録の中で翁は、本日の講師江口先生に「赤い小便が出たことがあるか？」と聞いたそうです。



最初のスタートが10代で丁稚として働き始めた時に親方より赤い小便が出るくらい商売に心血を注ぐように言われた無垢の幸之助は一生懸命働くと同時に「おもんばかりの心も親方の背中を見て育っていったことと思います。」

自分の利益ばかり優先して考えていることを「利己」とか。「利己主義」と言い、率直な成長が止まってしまう。

利己に対する反対語があり、それを「利他」というそうです。自分の事だけでなく、人の為にも働く事、相手の事をおもんばかりで動くことを言うそうです。講演が終わって三歩歩いたら「利己」の自分がいました。いけないいけない60歳をとっくに過ぎて暦も変わっている今、「利他」を少しでも増やそうと四歩目から思いました。(保谷英雄)



鎌倉PC10周年記念式典
横浜プロバスメンバー11名参加

2月10(金) 11:00から鎌倉プリンスホテルにて鎌倉プロバスクラブ創立10周年記念式典が開催されました。天候も良く富士山は見えませんが江ノ島を望む地で、鎌倉プロバスメンバー26名、横須賀プロバス3名、川崎西プロバス5名、横浜港南台プロバス3名、東京八王子プロバス1名で合計49名参加のもと晴れやかに行われました。内容については第一部記念式典、第二部ピアノ演奏で、プロで活躍中の

馬場祥子さんにより素晴らしい4曲の演奏を披露して頂きました。第3部は祝賀レセプションでした。



●酒よし！花よし！湯河原の旅●

4月移動例会兼1泊親睦旅行を盛会に開催

去る4月12日（木）から13日（金）にかけて1泊で移動例会（P1に写真）が会員制ホテルのR&Sホテル湯河原碧翠にて21名の参加を得て盛会に行われました。

12日午後3時に集合し、第127回例会を通常通り実施をし、その後入浴、宴会場でのカラオケタイムも含めて和やかに、かつ大変な盛り上がりで会員間の親睦を図る事が出来ました。さらには幹事室での2次会、これもまた大変楽しいひと時でした。

翌13日は朝からビール等を飲み朝食終了後ゴルフサークルのメンバーはコンペに、他の希望者は桜の花が満開の小田原城公園で観桜会と洒落こみました。

さて、今回の例会では会員放談と称して「設立して11年、私たちの倶楽部を考える」というテーマで直前会長である加藤武氏より卓話がありました。

その主な内容は、プロバスクラブは「親睦団体」であると共に義務として強制はされないが「社会奉仕団体」でもあるという目的から始まり、プロバスクラブの起源及び歴史、さらには現状（全国108クラブ、会員数約3000人、神奈川県下では5クラブが活動中）及び世界の動き（全世界で4000クラブ約40万人）など、加藤氏

作成の資料「横濱プロバス倶楽部の概要」に基づき（1）設立年月日（2）会員数（当倶楽部は全国でベスト10）（3）年会費（4）諸行事・活動等（例会の内容、サークル、同好会の活動、他クラブ等との交流状況、会報紙「よこはまプロバス通信」の定期発行及び理事会の活動状況等）の話があり、次いで、倶楽部の運営3原則（①適正な会員数②適正な財政力及び③楽しいプログラムの工夫・提供）について他クラブの現状と比較しながら、さらには、他クラブの特色ある例会の内容、サークル・同好会の活動状況、他クラブ等との交流状況及び地域交流・社会奉仕活動等についての紹介がありました。

私たちは横濱プロバス倶楽部の現状をよく理解すると共に、全国の他クラブの活動状況を比較検討し、設立10周年も経過し今後15周年に向けてより活性化し充実発展させるために会員全員がよく考えてみようではないかとの問題提起がありました。

最後に昨年5月から懸案事項であった全日本プロバス協議会の次期会長及び幹事長問題について、さる4月3日京都で開催された役員会に加藤武、森山功の両氏が出席し、全日本の役員会の要請を受ける旨意思表示をしたことの報告がありました。（全日本の総会は11月13日神戸で開催、8Pの全日本プロバス協議会便り参照）

この活動を通じて人生を楽しく豊かにするためにクラブ活動を楽しもうではありませんかということで卓話が終わりました。（次Pを参照）

【旅行同好会】

「上海3泊4日の旅」

第2回は9月に北京の旅予定



第1回の旅(3月10日～13日)は発展著しい上海を選びました。羽田発着の便利な便で出発。観光(豫園等)もツアーでは行けないところを案内いただき、松下幹事の友人宅にも表敬訪問。上海の豊かなご家庭を垣間見、美味しい手作り料理に大満足でした。

＜加藤武氏 4月会員放談のレジメより抜粋＞

円滑な運営を図るには、その団体に適した「組織」と運営に必要な最小限の「ルール」が不可欠であり、組織上の役務分担の実行及び定められたルールを全員で守ることが必要であり、そのことにより楽しい倶楽部となり、発展するのではないのでしょうか。

人生を楽しく豊かにするために、プロバス活動を楽しもうではありませんか！

1 プロバスクラブの「目的」

「親睦団体」で義務として強制されない「社会奉仕団体」リタイアしたのちも活動する能力のある人々等が原則として月1回の会合を行い、ゲストスピーカーや会員の卓話、会員同志の交流や親交を通じて、相互の共感や価値ある活動の機会を提供し、意義ある生活を推進すること

2、プロバスクラブの起源

プロバス (PROBASU)とはProfessional (専門職) のPROとBusinessman (実業家) のBUSを合成した造語。ラテン語のProbus (誠実) という言葉から援用したという説もある。

1905年 アメリカのシカゴで開催、ロータリークラブが誕生

1965年 イギリスのプロバスクラブが誕生1920年代初め、カナダのサスカチュワン州・アメリカのコネチカット州に原型となる集まりが組織される。

1965年 イギリス・ウェルウィングガーデンシティのロータリーが退職した専門職及び実業家による会合を考え月1回の例会を持つ組織を設立。

集いの場が「The Campus」と呼ばれる町が中心であることから「キャンパスクラブ」と名付けられた。

1966年 アメリカのキャスターハムロータリークラブが同様なクラブを組織

この二つのクラブが合併され「プロバス

(Probasus)」と命名された。

そして1974年 ニュージーランド、1976年 オーストラリアへ波及し、今では、ヨーロッパ、アフリカ、アジア各国など世界中併せて4000クラブ40万人以上の会員を擁するまでになった。

わが国では1988年1月に兵庫県の清流会クラブが最初に設立された。

現在日本では108クラブ約3000人程度が会員 (プロビアン～Probian～と称す) となっている。

神奈川県では設立順で横濱、神奈川横須賀、鎌倉、川崎西、横浜港南台PCまろにえ の5クラブが活動している。

元来ロータリー会員 (ロータリアン) を高齢で引退した人達のために親睦の場としてのプロバスクラブという意味合いが多分にあり、ロータリーとの競合を避けるため、プロビアンは60歳もしくは65歳以上であることが年齢制限とされてきたが、現在ではそうした制限を取り外したクラブが多数である。

3、倶楽部運営の3原則

(1) 適正な会員数	(2) 適正な財政力 (3) 楽しいプログラム
※当倶楽部：40名 他クラブ：	※年会費：当倶楽部：12000円 65000円 (1クラブ) 40000円 (1クラブ)
84～40名 10クラブ	36000円 (6クラブ)
10～5名 7クラブ	30000円 (6クラブ) 12000円 (11クラブ)
92クラブの 平均会員数 24名	10000円 (1クラブ) 5000円 (2クラブ) 3000円 (1クラブ)

4、諸行事・活動内容(含む他クラブの例)～別紙「横濱プロバス倶楽部の概要」(省略)

①例会	・野外 (ハスカップ摘み、焼き肉パーティ) 例会<千葉> ・納涼 (ビール祭り) 忘年チャリティ例会、新年交礼例会<千葉> ・観桜会、観月会、新年会特別例会<松任> ・景勝地、美術館、博物館、工場・研究所、著名料亭等訪問例会<福山> ・春秋の小旅行、施設見学会例会<はまゆう> ・野外研修 (紅葉、郷土、歴史、自然とのふれあい学習) 例会<老岐>
②サークル・同好会	・旅行サークル・歴史サークル・ゴルフ同好会・史跡探訪サークル・陶芸同好会・あるこう会・酒楽会 (サロン)・ボーリング同好会・囲碁同好会<川崎西、松坂鈴、赤穂、横濱>
③他クラブとの交流会等	・京都PC～尼崎PC姉妹クラブとして交流<京都> ・PC活動が活発な「オーストラリアPC訪問・交流」<堺>
④地域交流・社会奉仕活動等～含む特記事業～	・生涯学習サロン及び子どもたちのための宇宙学校の開校<八王子> ・出前講師 (会員) 派遣<姫路南>・ふるさと学 (老人の生き方) <わたらせ>・交通安全運動に参加<千歳>・観光地・地域等清掃運動<千歳、六ヶ所、九華、高山、吾平>

5月例会での懇談



2月例会開催（第125回）

平成24年2月10日（金）14時から、進交会館にて2月例会が開催されました（19名参加）。当日は、鎌倉プロバスクラブ10周年記念式と重なり、当倶楽部から11名の会員が式典に参加したため、若干寂しい会となりました。

森山会長の挨拶の後、松下幹事から、2月8日（水）開催の横浜山手ロータリークラブ20周年記念式典参加報告がありました（当会からは新旧会長始め7名が参加）。大変盛大且つ内容ある会であったとのことです。（P3参照）

2月誕生月会員は、乙幡、西山、櫻井、中村芳之氏の4氏で、長老の乙幡アドバイザーからは87歳とは思えない元気なご挨拶を頂きました。

2月は久々の会員放談で、原田正成会員にお話しをして頂きました（P7参照）、恒例の月の歌「早春賦」は、音楽の小磯師匠不在で取り止めとなりました。

なお、4月12日、13日の湯河原移動例会時、2日目にゴルフサークルコンペ実施のお知らせがありました。例会終了後、同会場にて、「第3回にこにこサロン」が14人参加で行われました。

3月例会開催（第126回）

平成24年3月9日（金）12時から、相生本店にて3月例会が開催されました（23名参加）。

森山会長から、冒頭の挨拶の中で、本日例会後、A、B、Cのグループ別に次期役員選出の打ち合わせをしてほしい旨、要請がありました。次に、ビジター高橋幸司氏（入会予定）の紹介が推薦者の中村實会員からあり、ご本人からも挨拶がありました（新会員紹介欄参照）。

3月の誕生月会員はおりませんが、4月生まれの松下孝会員に対して、岡会員委員長からお祝い品の繰上げ贈呈が特別に行われました。

2月会務報告（松下幹事）は、4月の親睦1泊移動例会・ゴルフ同好会コンペ、次期役員選出工程、同好会の上海旅行（3月10日から6名参加）について行われました。

また、2月例会当日開催の鎌倉PC10周年記念式典（11

名参加）について、事務局小磯会員から「晴天の中、女性ピアニストのクラシック演奏もあり盛会であった」旨、報告されました。

3月の会員放談は、お二人で、東京南千束生まれの岩田慎一氏と中村芳之氏の放談がありました（P7参照）会員放談後、月の歌「花」を斉唱して閉会し、その後グループ別に次期役員選出の話し合いを実施しました（理事会に報告予定）。

4月移動例会開催（第127回）

平成24年4月12日（木）～13日（金）、ホテル湯河原「碧翠」にて、一泊親睦旅行（4月移動例会）が開催されました（21名参加）。

例会は森山会長の挨拶のあと、会務報告が各委員長からあり、会員放談として加藤武氏から「設立して11年、私たちの倶楽部を考える」と題して卓話を頂き例会終了。その後、皆さん温泉でゆっくりされ、恒例の懇親会開催となりました。玄人優りの平野会員による名司会により、カラオケ付き飲み放題で大いに盛り上がり、次々とダンスカップルも出て、8時の閉会が惜しまれる程でした。（P1、4参照）

幹事部屋での2次会は、3月中旬の上海旅行のDVD報告も放映され、多くの会員が夜更けまで歓談を楽しみました。

翌日は、ゴルフ同好会（報告参照）へ8名、他は観桜会へそれぞれ春の湯河原を満喫しました。幹事さん、皆さんお疲れ様でした。（P7参照）

5月例会開催（第128回）

平成24年5月11日（金）12時から、相生本店にて5月例会が開催されました（31名参加）。

冒頭、森山会長から移動例会のお礼とゲストとビジターの紹介があり、富永和男、宮川清彦両氏（入会予定）から挨拶が行われました。

引き続き、5月誕生月の加藤武会員、岩田真一会員へのお祝い品贈呈後、両会員から喜びの挨拶がありました。

5月会務報告（松下幹事）は、6月15日の神奈川県プロバス連絡協議会（横浜港南クラブ主催）への参加、6月定時総会開催準備について説明が行われました。

5月特別放談は、元PHP総合研究所社長で現参議院議員の江口克彦氏をお招きし、「松下哲学」を中心に、国際社会での日本の現況について、明快かつシビアな講演（P2～3参照）をして頂きました。

ご講演後、会員から多くの質問もあり熱気あふれる会となりました。

5月の歌「背くらべ」を斉唱して閉会となりました。

今月は、席を弁慶に移動し、「にこにこサロン」を開催（16名参加）、青木会員（弁慶社長）の人生訓「楽しく集えばガンも逃げる」を拝聴し、大いに生気を養ったところです。

原田正成会員から「墓場へ持って行く予定であった三つの失敗」

を、初めて特別に披露していただきました。欠席会員には申し訳ありませんが、ごく簡単に項目のみご報告します。①1968年、オデッサ見本市開催の横浜市責任者として、3カ月間ソ連出張中、モスクワに於いて、不可解な疑いでタクシー運転手に警察署に連行され、身元判明まで一晩取り調べを受けたこと。②その7、8年後、ハンブルグ駐在員時、ドバイへの出張の際、空港の取調室に一晩拘束されたこと。直前に入国ビザ必須に変更され、入国一時ストップ。パスポートを取り上げられ、出国時に担当官不在で間一髪の脱出となった。③ハンブルグから帰国数ヶ月前（当時ドイツでは飲酒運転容認であったが）、車が故障した友人を自宅へ送った後、飲酒運転でパトカーに捕まり、一晩留置場に拘束され、検査の結果、免許・罰金給料2カ月分とあいなったこと。「以上、身から出たサビで、時効でもあり、話をして、いくらか胸のつかえが取れた」とのことでしたが、国際人原田会員の面目躍如、ご活躍振りが推察される秘話でした。（2月例会）



興味深いお話を伺いました。
（3月例会）

東京南千束生まれの岩田慎一会員から、中江克己著「江戸は究極のエコな街」のご紹介がありました。
*水運を重視して、徳川家康が江戸港のあった当地を幕府の都としたこと、*神田山を崩して埋め立て、運河や溜池、水道橋を構築したこと、*その名残が各所に見られること、*そしてまた、江戸が世界的な「エコ都市」「リサイクル都市」で、捨てるもの、ゴミの出ない都市であったことなど

第3回にこにこサロン開催
（2月10日）

今回も、青木社長のご厚意により、弁慶の自慢料理を出血サービスで届けて頂き、その分大いに飲み楽しむことができました。話題提供いただいた原田会員、並びに青木会員、誠にありがとうございました。また、小磯会員には、鎌倉の10周年会から駆け付けて頂きお礼申し上げます。



中村芳之会員ご自身が旅行で体験してきた「西欧・東欧トイレ事情」と題して観察眼鏡く好奇心一杯の目で見てきた貴重な報告を頂きました。
*ヒースロー空港のトイレトーパーは、直径50～60センチの巨大なもの、理由は「持ち去り防止」と推測している。
*フランクフルトなど独のトーパーは、色が薄黒い。便座が自動的に清掃されるトイレもある。
*独英の便座は、足がブラブラするほど高い（大男サ



第2回ゴルフクラブコンペ（4月13日）

ゴルフ倶楽部の第2回コンペが、快晴の下、満開の桜に囲まれた湯河原カントリー倶楽部（ホテルから10分）で開催されました（参加者2組、8人）。ほとんどの会員は、慣れない山岳コース、速いグリーンに悩まされ、中でも、前日全精力を例会（宴会）に注いだM幹事は、酔いも残った千鳥足の戦線となりました。このように全員不満足なスコアの中、実力充分の関口会員がグロス99、ハンディ22.5、ネット76.5で優勝。以下2位荻原、3位青木、BB賞岡部各会員という結果で、ニアピン賞は、4ホールでただ一人グリーンオンの樋口会員が受賞となりました。その他の参加者、原田、松下、保谷の各会員は残念な結果となり、次回の雪辱を期すことになった次第です。

イズ）。洗面台も同様で使いにくい。
*ハンガリーは素晴らしい国だが、ブルガリア、ルーマニアまで行くと、東欧では一般的にトイレは有料で、入口の待ち番から切ったペーパーを受け取る。しかも、きれいなトイレは少ない。
*日本自慢のウォシュレット、その原型をトルコで発見、手動式で後の栓を回してお尻に水を出す。「最近余裕を持って海外トイレを観察している」とのこと、詳細はご本人にお聞きください。

（3月例会）

港 湾 都 市 横 浜
第5話 <横> 横浜駅の変遷



会員 中村實

今から140年前の明治3(1872)年10月14日、本邦初の鉄道が横浜と新橋の間に開業した(その年の6月12日には横浜と品川の間で仮営業を始めている)が、当時のつまり初代横浜駅は現在の桜木町駅の位置であった。ところでそれを示す物件はあるのであろうか。

桜木町駅の改札口を出て正面客待ち(店舗に挟まれている)に掲げられた「日本の鉄道の父・E・モレル<英国人>」のレリーフに一礼して駅舎を出てバス通りを横断しよう。

関内駅寄りに100mほど進むと野毛方面への地下道の入り口がある。向かって左側の降り口の階段脇外側にはがき2枚ほどの小さな陶板がはめ込まれている。「開業当時の横浜駅長室の跡」とある。これが唯一の手がかりといえようが、ほとんど人目につかない。やがて明治20(1887)年7月11日には辰野金吾設計の東京駅が開業し、東海道本線の起点となった。現在は修復中だが平成24年度中には完成当時の威容を現わす予定である。

そして大正4(1915)年8月15日、現在の高島町の交差点(交番の背後付近)に2代目横浜駅が開業し、初代横浜駅は桜木町駅と改称した。これは東京から来



初代横浜駅(筆者コレクションのイオカードから) 交通博物館所蔵写真

た列車の機関車が横浜駅でV字形に反転して西の方へ向かうという不便を解消するためであった。2代目横浜駅開業後、10年も経たない大正12(1923)年9月1日、関東大震災が発生し、初代横浜駅と共に焼失した。昭和2(1927)年5月24日に3代目横浜駅建設に着工し、1年4ヶ月の工期を経て、翌年10月15日に開業した。駅舎には大理石を一部使用し、当時東洋一と称された豪華なものであったという。

駅舎正面上部に設置された大時計は第2次大戦前後を通して横浜駅のシンボルとなっていた。戦後の混乱期が過ぎ、横浜の急激な人口増加、高度経済成長を見つめてきた横浜駅は昭和30年代から40年代にかけて、西口東口に大きな商業施設を擁することとなり、昭和56(1981)年には東西自由通路(長さ125m、幅員36m<本邦最広>)が完成し、4代目駅舎となった。平成9年に始まった「鉄道の日記念・関東の駅百選事業」で横浜駅は平成12年8月10日にこれに入選している。4代にわたる横浜駅を超特急でご紹介した。

全日本プロバス協議会便り

● 直前会長 加藤 武

全日本プロバス協議会の現状についての概要は前号でお知らせしたとおりです。

さて、私たち横濱プロバス倶楽部と全日本プロバス協議会とは、協議会の一会員クラブであり



それ以上でもなく、それ以下でもなく推移してきました。

② 昨年の4月に当倶楽部の創立10周年記念行事の二次会の席上で全日本の金森正夫会長から「加藤さんは全日本には関係されておられませんね、お手伝いいただけませんか」というお話がありましたが、私は「自分たちの倶楽部及び地元かながわの活動を優先し、大切にしたい」旨のお答えをしました。

その後5月に入り全日本の吉川幹事長から突然自宅に電話があり「金森と私は今期で退任します。創立以来8年間会長・幹事長は関西で担当してきたので次期は関東でお願いしたい。ついては次期会長を加藤さんに、また幹事長は会長と同じクラブの方が何かにつけて都合がよいので横濱からは是非お願いしたい」とのことであった。私個人としては、今迄全日本には何の関係もなく、あまりにも突然で、唐突な話でしたので一度はお断りいたしました。

しかし「横濱には多くの人材がいるので運営の要となる

幹事長も是非お願いしたい」とのことでしたので、倶楽部として検討することとし、理事会で数回にわたり協議し、その都度説明及び報告したところです。

この間、金森会長・吉川幹事長から再三にわたる要請があり、関係資料もお送りいただき、特に吉川幹事長は横浜までお越しいただき現執行部の方々とも意見交換が行われました。

さらに、昨年11月には全日本プロバス協議会としての正式な会長・幹事長就任要請文が届き、昨年5月から今日までの経緯を踏まえるとお断りすることはあまりにも失礼であり無責任になってしまうと思われました。(続く)

編集後記 プロバス通信が発行されて、早2年第6号の発行になりました。▼どこのクラブでも、定期的に発行するのが非常に難しい中4ヶ月置きに発行できたことに優越感を覚えるのは私だけでしょうか▼手前味噌ですが森山編集委員の強い意志で、会員親睦(にこにこサロン、ゴルフ同好会、旅行同好会等々)、他倶楽部への発信と交流は着々と実を結んでいると思います。▼またホームページの方も各例会、交流会をスナップ写真で報告をして55回更新することが出来ました。▼「ぷろばす通信」を継続することが情報委員会の使命と思い、今後も「おごらず 無理せず 焦らず」をモットーに広報担当を続けていきたいと思ひます。後から続く情報委員をバックアップするのも私の使命と思ひます。

(情報委員長・関口 尚親)